

新元号の年 英霊顕彰の想い新たに



発行所
一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34
滋賀県遺族会館
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233
発行責任者
滋賀県遺族会会長
大長 弥宗治

新年のご挨拶



絶やしてはならない
平和の「ともじび」
滋賀県遺族会長 大長 弥宗治

新年おめでとうでございます。会員の皆様にはご家族お揃いで健やかに平成31年の初春をお迎えされましたことを心からお慶び申し上げます。

今上陛下をお迎えした平成の時代も、本年の5月に皇太子殿下を新しい天皇陛下としてお迎えし、新元号となりました。

今上陛下は、昭和天皇のご意志を引き継ぎ、今日に至るまで多くの戦没地への追悼慰霊の旅を重ねてくださいました。それは、私たち遺族にとりましては、無上の慰めでございます。

我が国は先の大戦が終結して74年の歳月を迎えます。この間、平和が続いていることは、志し半ばにして尊い命を捧げられた英霊の意志をしっかりと引き継ぎ、二度と再びあの忌まわしい戦争の惨禍を

繰り返さないことを柱にして、英霊顕彰活動が続けてきた賜物であると思います。平和を守り続けることは今に生きる者の永遠のテーマであり、今日まで先人たちが灯してきた英霊顕彰の想いは、決して絶やしてはならない「ともじび」であると思います。

「人類は、歴史を忘れ、或いは直視することを止めた時再び重大な過ちを犯す」と言われています。ここに新年を迎えるに当たり、今一度遺族会活動の原点に立ち返り、今は亡き父たち英霊の意志を次世代に引き継ぐため、責任と自覚を持って頑張つて活動し続けていきましよう。

2019年もよろしくお願ひ申し上げます。

女性部研修会 健康に務め 青年部へ継承しよう



「めだかの学校」の皆さんによるハーモニカ演奏で昔懐かしい歌を披露

平成30年度女性部研修会が10月12日、近江八幡市の滋賀県立男女共同参画センターで、滋賀県遺族会役員・女性会員186人が参加して開催された。藤澤喜八郎副会長に続いて、木津美智子女性部担当副会長が挨拶された。

遺族会を中心的な役割を担ってきた戦没者の妻の高齢化が進む中、平成18年、婦人部から女性部へと移行された。遺族会の継承者であるとの認識のもと、青年部との組織の一層の充実強化を図り、未来永劫英霊を顕彰し、遺族会を青年部の皆さんがどのように継承し、存続させてくださるかが大きな課題である。

遺族会も高齢化し、今一番心配なのは、いかに健康で毎日過ごすことができるかである。辻医院の辻雅衛院長を講師にお迎えし、講演「健康で長生きするためには」を拝聴した。

講演の内容は次の通り。健康は、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも全てが満たされた状態である。元気で活動するためには、生活習慣病の予防と、健康管理が大きな鍵である。適度な運動、会話の場を多く作り、バランス良く体を使

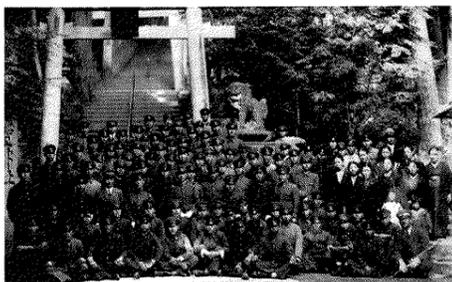
う。寝たきりにならないよう上手に付き合っていく。年齢と共に老化が始まる。免疫力の低下、脳や循環器系の老化等に気をつけよう。

歳を重ねた私たちは、あくせくせず、いつものところで、いつものように、いつものことをできる喜び、できる幸せを心がけ、穏やかに過ごすことが肝要である。

続いて、山川芳志郎副会長から「母の生き様に学ぶ」の演題でお話を聞いた。その概要は次の通り。就職し、学校に赴任の日、母は「火事は土地まで焼けないが、ゴンタ(できの悪い性行不良の子ども)は、家・土地まで無くしてしまふ。手抜き教育はゴンタを生む。したらあかんで」と言った。「手抜きはするな」の言葉通りにしてきたらどうかと反省している。

滋賀県平和祈念館だより

第22回企画展示
戦時下の村と陸軍飛行場



地元が官民あげて誘致運動を繰り広げた八日市飛行場は、地元が期待したとおり街の経済を活性化しましたが、そればかりでなく、昭和初期に深刻な農業不況におちいった農村部にとっては安定した就職先にもなりました。今回は、農村に生まれた人々に焦点を合わせて、彼らが戦時体制に組み込まれ、激化する戦争に巻き込まれていった様子を紹介いたします。

平成31年1月9日(水)～6月2日(日)〈入館無料〉
滋賀県平和祈念館(東近江市下中野町431) Tel. 0749-46-0300
開館時間: 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日: 月・火曜日 駐車場: 約50台(無料)

られた。アトラクションでは、「めだかの学校」のハーモニカ演奏で昔懐かしい歌が披露された。

和やかなひとときを過ごした。長岡功事務局長から遺族会事業等の報告の後、全員で「靖国神社の歌」を斉唱し、研修会は無事終了した。

(女性部会 部長 野村 しげ子)

2019年度 滋賀県戦没者英霊塔月並み法要の各都市参列計画

(毎月15日: 午前9時30分集合、9時30分から20分～30分間周辺を清掃する)

年月	参列予定都市	年月	参列予定都市
4月	高島市	10月	湖南市
5月	草津市	11月	甲賀市
6月	守山市	12月	近江八幡市
7月	栗東市	1月	東近江市
8月	—	2月	蒲生郡
9月	野洲市	3月	愛知郡

平成30年度パラオ共和国戦跡慰霊巡拝関連記事について
平成30年11月22日～26日に行われたパラオ共和国戦跡慰霊巡拝の記事は、紙面の都合上、第260号(6月30日発行)に掲載いたします。

(広報委員会)

会員の皆さまへお願い

滋賀県遺族会長 大長 弥宗治

平成30年3月29日開催の第207回理事会第5号議案で、一般財団法人滋賀県遺族会定款細則の一部改正が承認されました。改正は別表のとおりです。

▲経過と改正理由▼

①会費収入の状況ですが、平成17年度では、総額2307万7千円が、特別会員(戦没者の妻)の減少により、平成30年度では914万2千円まで減少。

②平成28年4月に今後の財政状況を考えて、岸田孝一前会長の下、財政事業改革特別委員会が理事会の承認を得て設置されました。平成30年2月21日の第11回財政事業改革特別委員会を以て、岸田前会長に答申しました。

③岸田前会長は、第207回の理事会に改革案を元に平成30年度予算案を提出され、理事会で承認されました。

④平成12年4月に、当時の親会(遺族会)から当時の青年部が滋賀県遺族会を引き継ぎました。その時、母たちは、将来の活動資金として2億円という大金を私たち遺児に授けてくれました。この資金で現在まで素晴らしい英霊顕彰活

動が続けられてきました。

⑤過去には、年間2千万円以上の赤字決算がなされていましたが、財政事業改革により、平成29年度決算では実質150万円まで縮小されました。

⑥英霊顕彰活動は、私たち遺児で終わらせてはいけないと思います。次の世代にしっかりとつないでいく責任があります。そのためには、財源も含めて考える必要があります。

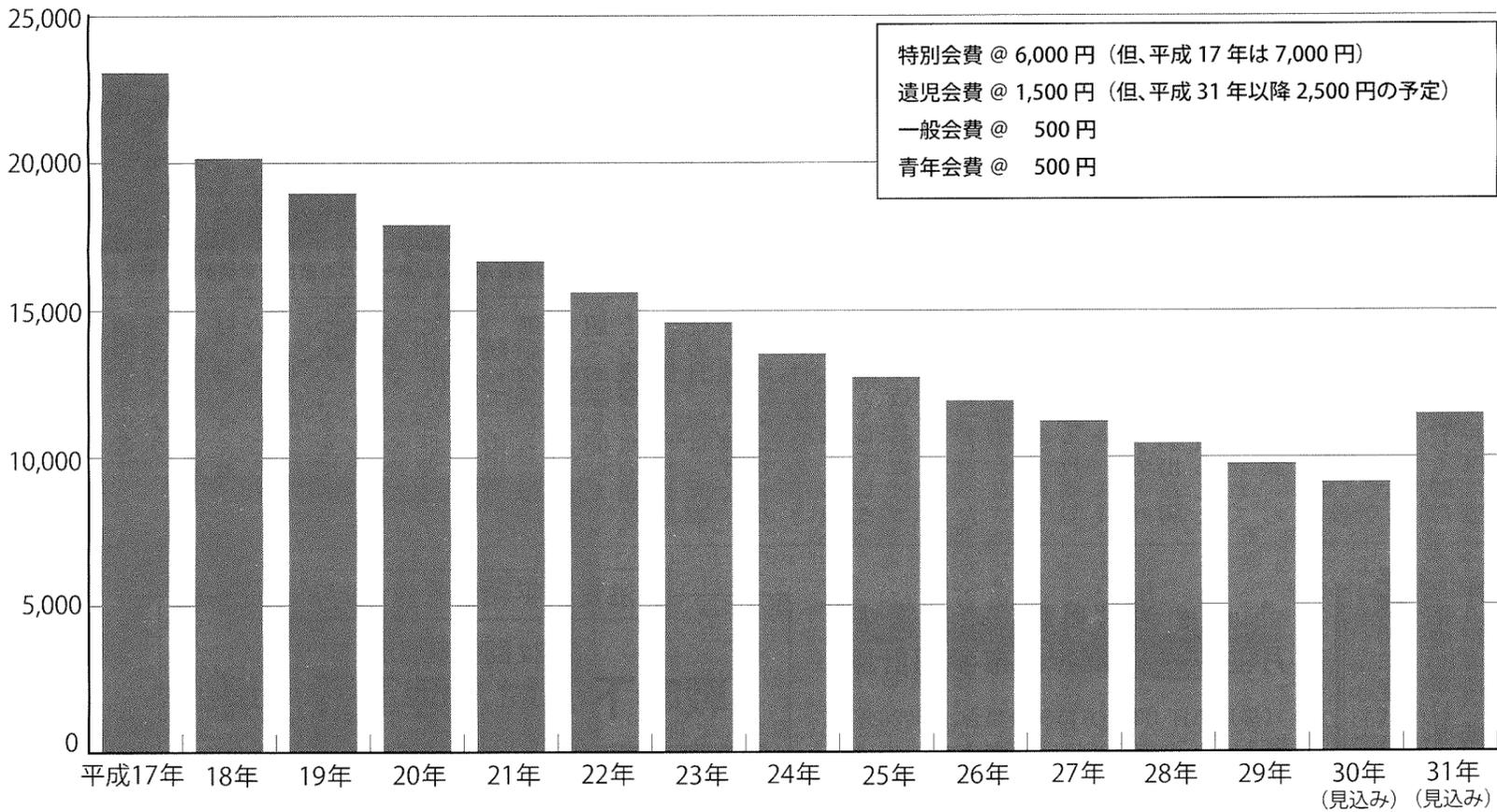
⑦今回の遺児会費の千円増額では、次世代までの資金確保には至りません。そこで、この法人の趣旨に賛同いただける方に賛助金として一口5千円をお願いするものであります。

⑧2・3面の各クラブを見ていただき、滋賀県遺族会の存続と次世代につなげるために、ご理解とご協力をお願いします。



会費収入の推移

(単位：千円)



特別会費 @ 6,000円 (但、平成17年は7,000円)
 遺児会費 @ 1,500円 (但、平成31年以降2,500円の予定)
 一般会費 @ 500円
 青年会費 @ 500円

(単位：円)		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
内訳	会費収入	23,077,000	20,161,500	18,982,000	17,912,000	16,690,500	15,637,500	14,600,000	13,518,500
	特別会費	10,948,000	8,502,000	7,674,000	6,846,000	5,880,000	5,124,000	4,392,000	3,582,000
	遺児会費	4,306,500	4,222,500	4,134,000	4,054,500	3,987,000	4,000,500	3,900,000	3,792,000
	一般会費	7,822,500	7,437,000	7,174,000	7,011,500	6,823,500	6,513,000	6,308,000	6,144,500
	青年会費	—	—	—	—	—	—	—	—

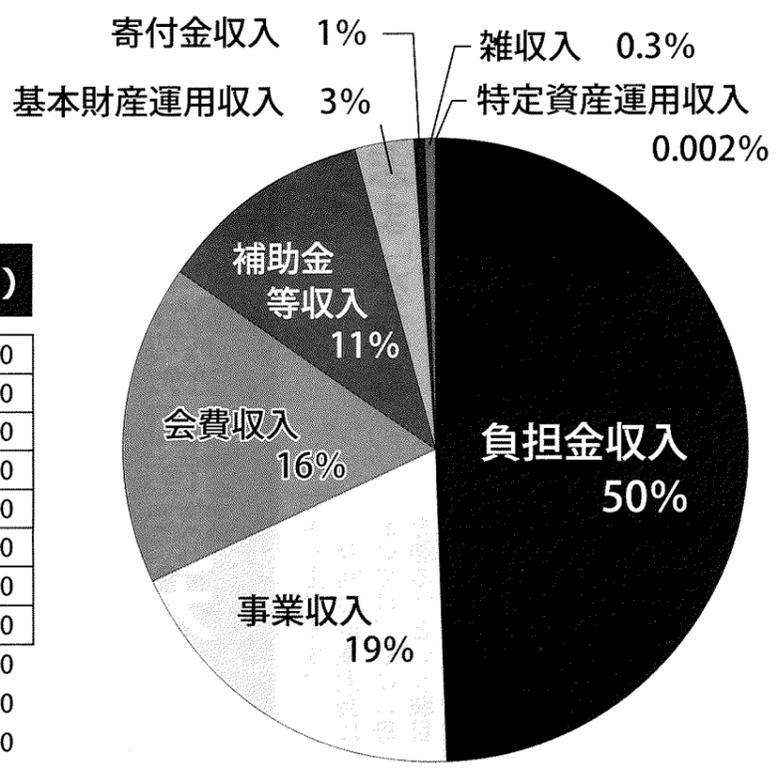
(単位：円)		平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
内訳	会費収入	12,711,500	11,912,000	11,226,500	10,464,500	9,772,500	9,142,000	11,455,000
	特別会費	2,988,000	2,466,000	1,962,000	1,560,000	1,182,000	900,000	900,000
	遺児会費	3,748,500	3,703,500	3,628,500	3,550,500	3,481,500	3,469,500	5,782,500
	一般会費	5,975,000	5,742,500	5,574,000	5,258,000	5,019,500	4,689,000	4,689,000
	青年会費	—	—	62,000	96,000	89,500	83,500	83,500

一般財団法人滋賀県遺族会賛助会員規程改正新旧対照表

改正前	改正後
<p>(会費)</p> <p>1. 定款第 38 条第 2 項に規定するこの法人の賛助会員は、次の賛助会費を支払うものとする。</p> <p>(1) 年会費 一口 500 円</p> <p>(2) 市町遺族会 各市町遺族会の以下に掲げる種別毎の所属会員数に、それぞれ対応する額を乗じて得た額</p> <p>種別/額</p> <p>各市町遺族会の特別会員 6,000円</p> <p>各市町遺族会の遺児会員 1,500円</p> <p>各市町遺族会の一般会員 500円</p> <p>各市町遺族会の青年会員 500円</p>	<p>(会費)</p> <p>第 1 条 定款第 38 条第 2 項に規定するこの法人の賛助会員は、次の賛助会費を支払うものとする。</p> <p>(1) 年会費 一口 500 円</p> <p>(2) 市町遺族会 各市町遺族会の以下に掲げる種別毎の所属会員数に、それぞれ対応する額を乗じて得た額</p> <p>種別/額</p> <p>各市町遺族会の特別会員 6,000円 各市町遺族会の遺児会員 2,500円</p> <p>各市町遺族会の一般会員 500円 各市町遺族会の青年会員 500円</p> <p>(3) 一般賛助金は、一口 5,000円 (一口以上) をこの法人の趣旨に賛同する人から募集するものとする。</p> <p>第 2 条 実施期間は、平成 31 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日までの間、毎年実施する。</p> <p>平成 30 年 3 月 29 日一部改正。平成 31 年 4 月 1 日から適用する。</p>

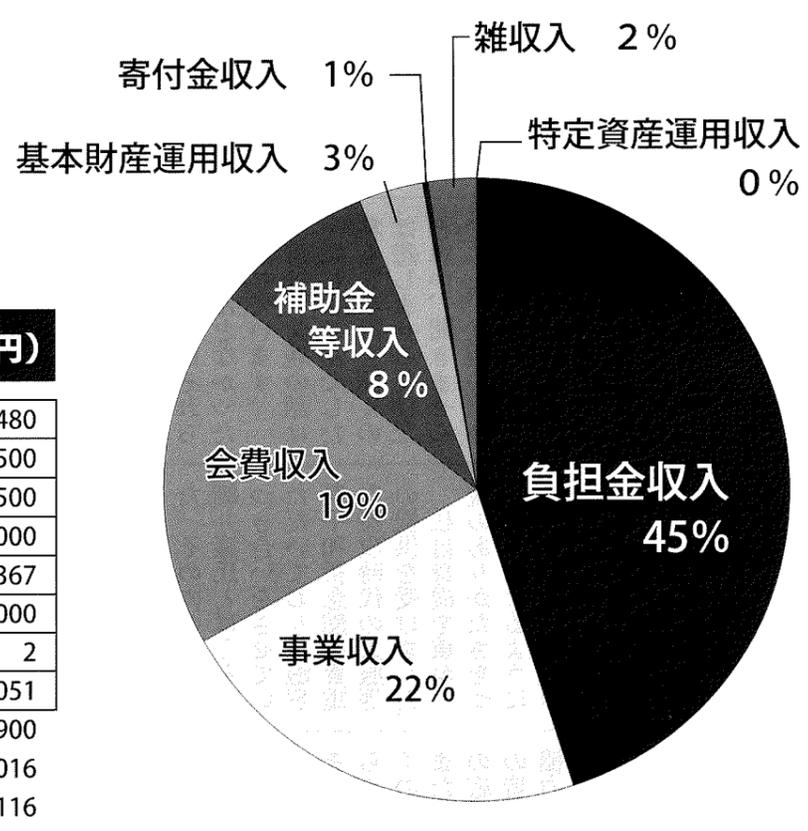
平成 29 年度予算(単位: 円)

負担金収入※注(1)	31,569,500
事業収入※注(2)	12,015,000
会費収入	10,497,000
補助金等収入※注(3)	7,200,000
基本財産運用収入	1,860,000
寄付金収入	440,000
特定資産運用収入	1,000
雑収入	220,000
収入合計	63,802,500
支出合計	64,877,950
(収入-支出)	-1,075,450



平成 29 年度決算(単位: 円)

負担金収入※注(1)	23,848,480
事業収入※注(2)	11,523,500
会費収入	9,772,500
補助金等収入※注(3)	4,419,000
基本財産運用収入	1,773,367
寄付金収入	220,000
特定資産運用収入	2
雑収入	1,199,051
収入合計	52,755,900
支出合計	55,311,016
(収入-支出)	-2,555,116

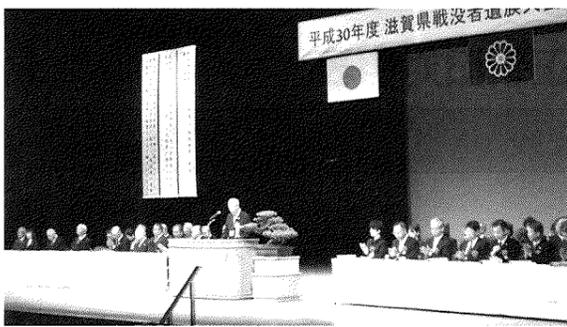


※注(1) 参加者負担金(海外戦跡慰霊巡拝、靖国神社参拝旅行、次世代戦跡訪問研修、沖縄戦跡慰霊巡拝)
 ※注(2) みたま祭献灯料
 ※注(3) 滋賀県からの補助金等(滋賀県戦没者遺族大会、海外戦跡慰霊巡拝、次世代戦跡訪問研修、沖縄戦跡慰霊巡拝、女性部リーダー研修会、平和祈願リレー行進)

大会宣言決議を 全会一致で採択

滋賀県戦没者遺族大会が、平成30年11月9日、守山市民ホールで開催されました。

滋賀県知事代理由布和嘉子副知事、滋賀県議会議長代理守山市選出の岩佐弘明県議会議員、守山市長代理として川那辺守雄副市長、小鍵隆史参議院議員、衆議院議員4人(大岡敏孝、上野賢一郎、武村展英、小寺裕雄)、参議院議員2人(二之湯武史、有村治子)については代理出席。畔上和雄日本遺族会専務理事をはじめ43人の県議会議員及び関係団体の来賓を迎え、県下各地から約800人が参加しました。



約800人が参加した滋賀県戦没者遺族大会

第1部では、開会のことば、国歌斉唱、英霊に対する黙禱、大長弥宗治滋賀県遺族会長のあいさつに続き、援護事業に貢献された方々に知事表彰を5人、滋賀県遺族会長表彰を21人に授与され、被表彰者を代表して竹井昌夫が謝辞を述べました。

続いて、由布滋賀県副知事、岩佐滋賀県議会議長代理より祝辞をいただき、川那辺守山副市長より歓迎の言葉が述べられました。今回は開催日を台風のため急遽変更したため、当初出席を予定されていた多くの方の調整がつかず、やむなく代理出席となりました。

次世代戦跡訪問研修体験発表では、地元守山市立守山中学校1年の柿迫風介さん、小枝心さん、小枝心大さん、アルカンタラ・ヒロシさんの3人が発表してくれました。当初発表予定の滋賀県立彦根東高、立彦根東高、校1年の麻中要さんは学校行事の都合で出席

できず、音声での発表となりましたが、知覧の特攻平和会館での講話や研修で感じた思いが素直に伝わり好評でした。

最後に、山川芳志郎守山遺族会長が大会宣言(案)・決議(案)を朗読、参加者全員が拍手で承認し採択されました。

第2部では「八日市陸軍飛行場での経験談話...飛び立つ兵士の思いをリレーで語る」と題して、総務企画委員会委員自らが発言しました。内容は戦争にかかわる身近なことを掘り起こし、意見を交えて発表するというもので、発表を聞いた私は、以前から聞いていた兵士の宿舎八紘荘を守つてくれた松浦志まさんが、総務企画委員長の松浦友一さんのお母さんを知り感動しました。(下段に関連記事) 鹿児島県知覧の特攻の母鳥浜トメさんほど全国に知られていませんが、私たちのごく近くにも同じ様な事をされてきた事実を知り、このことを県下の多くの人にも知ってほしいと思えました。

さらに、平和祈念館運営委員である中島伸男さんの「大東亜戦争と滋賀、そして陸軍八日市飛行場」と題する講演を

聞きました。県下の戦争にかかわる記録映像は数多く残されていますが、ここで披露された映像は恐らく皆さんは初めて目にされたものではないかと思えます。

アトラクションとして、地元守山市の杉江のり子さんを代表とする「和太鼓一番搾り」の皆さんによる創作太鼓で大会の最後を締めくくりました。

(総務企画部会 部長 竹井 昌夫)

「八日市飛行場」企画を顧みて

平成30年6月初め、山川芳志郎滋賀県遺族会副会長から「滋賀県平和祈念館へ行く。目的は八日市飛行場の訓練の様子や特攻隊員の日常生活を知りたいので、同行してくれないか」との電話が入りました。後日、滋賀県平和祈念館に寄せていただき、そこでビデオ一覧を見させていただきました。

その中に八日市飛行場の特攻隊員の細井巖氏のビデオがありました。見せていただき、八日市飛行場を遺族大会のテーマにしようという決意がなされました。その中の講師には、「八日市飛行場物語」を出版し、常日頃、遺族会を理解していただいている地元の中島伸男氏に締めくく

たところ、早く引き受けてくださいました。今回、台風21号の襲来で、当初予定の同9月30日の遺族大会は2カ月延期になりました。2カ月間、皆さんに喜んでもらいたいという気持ちを持ち続けながら、スタッフの皆さんの気持ちは原稿の内容から次第に自分の言葉に変わり、相手に訴える力が強くなったように感じました。この経験は、今後の人生に非常に大切なことなのだと思えました。

自分が自身の人生、母親の人生をダブらせて、感極まったの握手であったことに間違いなく、私自身も目頭が熱くなりました。まさに、戦死した父を思い、苦勞した母を思う気持ちが合体したのだと思えました。

この遺族大会を通して、今後も我々の生きてきた人生を語り継ぐことが必要なのではないかとつくづく感じました。

(総務企画委員会 委員長 松浦 友一)

私の母 「松浦志ま」を語る

平成最後の年の滋賀県戦没者遺族大会において、八日市飛行場及び八紘荘を取り上げていただき感謝したことに深く感謝

温かい愛情を注いでくれた母親への想いを語る 松浦友一氏

今回の遺族大会において、私に「母を語る」という題目をいただきました。母は、私から見ても考えられないような苦勞の中に身を置き、自分の子ども(私)の成長を楽しみに、自分の人生は捨て、化粧もせず、旅行にも行かず、一途に私に温かい愛情を注いでくれました。当時、母子家庭を擁する「父なし子」と言われないうに、女手一つで世間の冷たさ、不平等な言動、近所の嫌がらせを受けながら、また誘惑の風にさらされながら、非情なまでの母子家庭の生活に耐えてきたものと思えます。私の就職の際には、母子家庭の子を採用すれば、何かあったときに困るとの社会風潮があつたように思われます。母親はどうしても男勝りにならざるを得ません。そのため、世間では「鬼か蛇か」のように言われたと聞きます。父親のおられる家庭

き「飛び立つ兵士の思いをリレー」で語る」と題して、その持ち場、持ち場の内容を何回も何回も検討し合いました。

2カ月間、皆さんに喜んでもらいたいという気持ちを持ち続けながら、スタッフの皆さんの気持ちは原稿の内容から次第に自分の言葉に変わり、相手に訴える力が強くなったように感じました。この経験は、今後の人生に非常に大切なことなのだと思えました。

自分が自身の人生、母親の人生をダブらせて、感極まったの握手であったことに間違いなく、私自身も目頭が熱くなりました。まさに、戦死した父を思い、苦勞した母を思う気持ちが合体したのだと思えました。

この遺族大会を通して、今後も我々の生きてきた人生を語り継ぐことが必要なのではないかとつくづく感じました。

(総務企画委員会 委員長 松浦 友一)

た。当日は、参加された皆さんと一体になることができ、涙を流して聞き入ってくださる方もおられました。大会が終つて玄關でお見送りをしていると、多くの皆さんが寄つてきてくださり、「ご苦勞さん」「ありがとうございます」の言葉をいただきました。中には、知らない方から両手で握手攻め、女性の方も感動して、涙を流しての挨拶を受けました。

遺児の皆さん自身が自分自身の人生、母親の人生をダブらせて、感極まったの握手であったことに間違いなく、私自身も目頭が熱くなりました。まさに、戦死した父を思い、苦勞した母を思う気持ちが合体したのだと思えました。

この遺族大会を通して、今後も我々の生きてきた人生を語り継ぐことが必要なのではないかとつくづく感じました。

(総務企画委員会 委員長 松浦 友一)

なりました。母は非常に喜び、懐かしいひとときを過ごしました。その内の一人、細井巖氏とは今もつき合いをさせていただいております。滋賀県平和祈念館へ貴重な特攻時代の衣服等の提供を受けました。私自身歳を重ね、親のありがたさをつくづく感じるようになりました。母親の温かさを子どもが頃受け止めていたか少々疑問ですが、今私があるのは母のお陰と深く感謝しております。

現在、母が命がけで守つてくれた八紘荘アパートは、平成30年8月に改装し、「特定非営利活動法人(NPO法人)はっこう」を立ち上げ、長男が理事長に

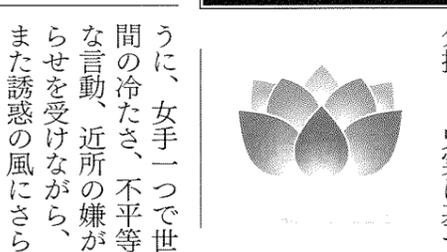
なり、知的障がい者自立支援の事業で障がい者の日常生活における援助や介護を行っております。

父親代わりとなつてくれた祖父と母、そして八紘荘から帰らぬ人となられた多くの特攻隊の皆様、また顔も知らない父の応援、そして地域の皆様のご理解、ご協力があつて、次の世代につながる事業を立ち上げることができました。

最後に、八紘荘で終戦を迎えられた将校さんは、戦後日本の復興に各地で活躍され、「次世代の育成」および「永久の平和」に貢献されましたことを付け加えさせていただきます。

(総務企画委員会 委員長 松浦 友一)

平成30年度 滋賀県戦没者遺族大会



「八日市飛行場」企画を顧みて

平成30年6月初め、山川芳志郎滋賀県遺族会副会長から「滋賀県平和祈念館へ行く。目的は八日市飛行場の訓練の様子や特攻隊員の日常生活を知りたいので、同行してくれないか」との電話が入りました。後日、滋賀県平和祈念館に寄せていただき、そこでビデオ一覧を見させていただきました。

その中に八日市飛行場の特攻隊員の細井巖氏のビデオがありました。見せていただき、八日市飛行場を遺族大会のテーマにしようという決意がなされました。その中の講師には、「八日市飛行場物語」を出版し、常日頃、遺族会を理解していただいている地元の中島伸男氏に締めくく

たところ、早く引き受けてくださいました。今回、台風21号の襲来で、当初予定の同9月30日の遺族大会は2カ月延期になりました。2カ月間、皆さんに喜んでもらいたいという気持ちを持ち続けながら、スタッフの皆さんの気持ちは原稿の内容から次第に自分の言葉に変わり、相手に訴える力が強くなったように感じました。この経験は、今後の人生に非常に大切なことなのだと思えました。

自分が自身の人生、母親の人生をダブらせて、感極まったの握手であったことに間違いなく、私自身も目頭が熱くなりました。まさに、戦死した父を思い、苦勞した母を思う気持ちが合体したのだと思えました。

この遺族大会を通して、今後も我々の生きてきた人生を語り継ぐことが必要なのではないかとつくづく感じました。

(総務企画委員会 委員長 松浦 友一)

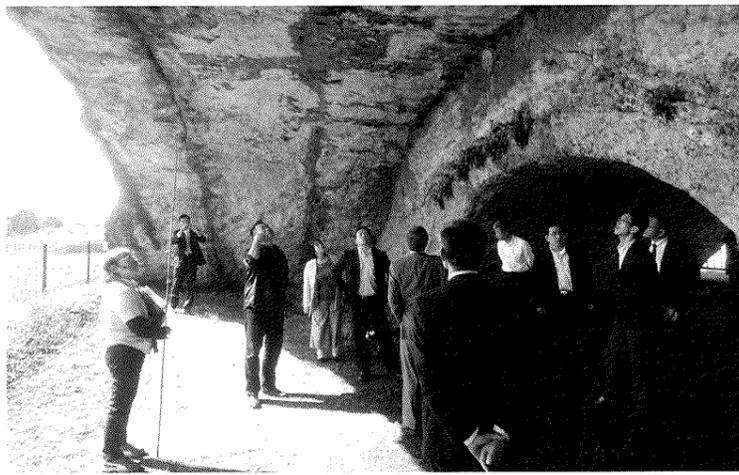
14年ぶりの知覧訪問

長浜市遺族会 青年部長 浅見 勝也

平成30年10月20日、21日の両日に行われ、滋賀県遺族会青年部による鹿児島方面研修会が総勢13人の参加で行われ、

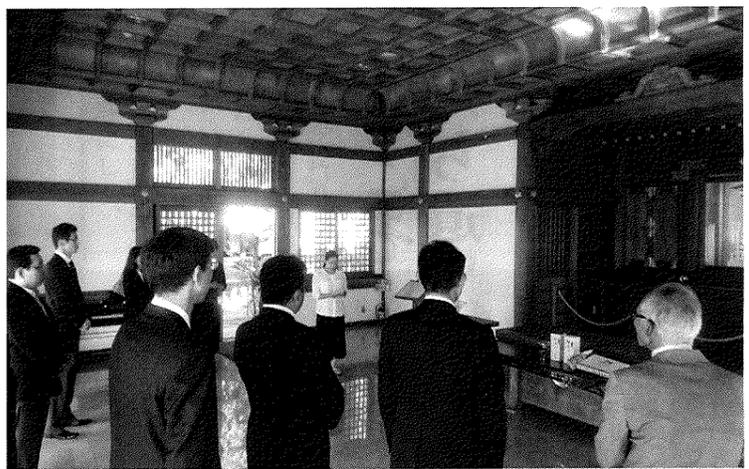
私も長浜市遺族会より青年部を代表して参加させていただきました。研修先の南内にある平和公園、串良海軍航空基地地下壕電信司令室、川東掩体壕の戦跡を訪問しました。現地の認定鹿屋平和学習ガイドの方に、日本で最も多くの特攻隊員が出撃した歴史を分かりやすくご案内いただきました。

20日は、鹿児島空港に到着後、鹿屋市内にある平和公園、串良海軍航空基地地下壕電信司令室、川東掩体壕の戦跡を訪問しました。現地の認定鹿屋平和学習ガイドの方に、日本で最も多くの特攻隊員が出撃した歴史を分かりやすくご案内いただきました。



鹿屋市にある川東掩体壕を見学

21日には、順番は前後しますが、花瀬望比公園（比島戦没者慰霊の碑）、万世特攻平和祈念館、「特攻の母」として慕われた鳥浜トメさんのホテル館富屋食堂（資料館）を訪問。そして、私自身14年ぶりに知覧特攻平和記念館を訪問、



知覧の特攻平和観音堂で行われた慰霊祭

施設内外の展示をじっくり拝観の後、特攻平和観音堂において慰霊祭を執り行い、参加者全員で英霊に対し黙祷、献花を捧げました。滋賀県遺族会青年部が設立され3年を迎え、年間を通じての活動にも息吹が満

ちて参りました。今回の研修参加で、恒久平和の実現、次世代への継承に向けての使命を担うことの大切さを改めて自認することができました。貴重な体験、誠にありがとうございました。

遺族会より 国・県に要望



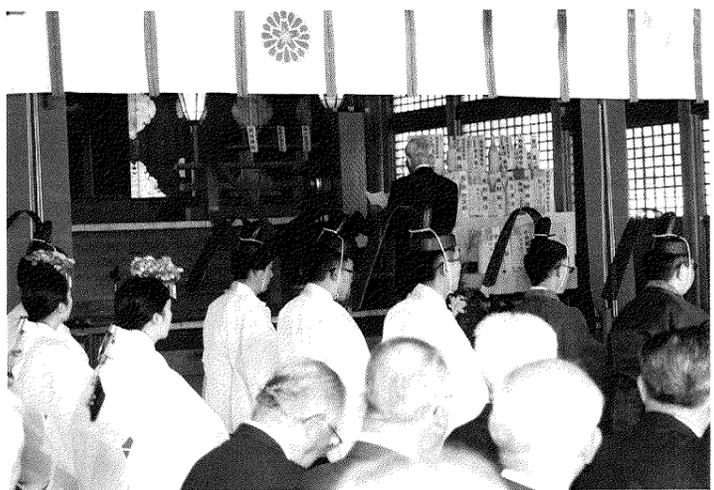
「つどい」に集まった自民党議員団

滋賀県遺族会が主催する恒例の「自由民主党滋賀県選出国會議員・滋賀県議會議員団とのつどい」が平成30年12月2日、大津市のアヤハレックサイドホテルで開催され、大長弥宗治滋賀県遺族会長から国・県に対し、要望が出された。

- 滋賀県遺族会が主催する恒例の「自由民主党滋賀県選出国會議員・滋賀県議會議員団とのつどい」が平成30年12月2日、大津市のアヤハレックサイドホテルで開催され、大長弥宗治滋賀県遺族会長から国・県に対し、要望が出された。
- 滋賀県戦没者追悼式は、はじめ英霊顕彰事業が、県民運動として大きく広がるよう啓発していただきたい。
- 護國神社の春・秋の例大祭や各地の戦跡慰霊巡拝に、知事の参拝・参加を期待する。
- 青年部に対する支援の拡大を願う。
- 全国戦没者追悼式への滋賀県の参加者資格の規制緩和を期待する。
- 戦没者の未帰還遺骨及び遺品を早期に遺族に返還するよう、働きかけを期待する。
- 英霊顕彰事業を「次世代」に継承するためにも「特別弔慰金の支給範囲」を戦没者の「孫」まで拡大するよう願う。

(広報 田中 靖俊)

滋賀県護國神社 秋季例大祭

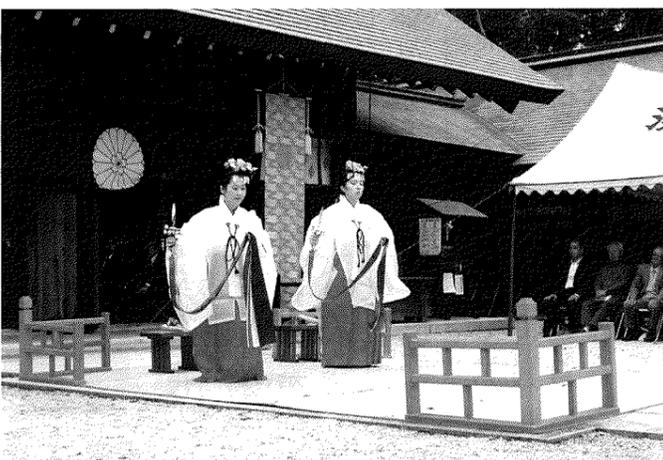


多くの遺族会員が参列した大祭

平成30年10月5日、近畿地方直撃が案じられた台風25号も大過なく過ぎ、青空がのぞく天候のもと、滋賀県護國神社秋季例大祭が盛大に齊行された。

滋賀県選出の国会議員をはじめ、多くの来賓と県内各地から多数の遺族会員が参列された。大長弥宗治滋賀県

はじめ種々の山海の幸や塩・水等の供物が供えられた後、長浜市遺族会青年部副会長の中川真澄さんの献茶があり、山本賢司官司の祝詞で大祭が始まった。



多賀大社巫女による「浦安の舞」

遺族会長が「東日本大震災や大阪北部地震、北海道胆振東部地震、台風21号・24号等で多くの人が尊い命を失われた。大勢の自衛隊員・消防署員・警察署員が、亡くなられた人々を最後の一人まで見つけ出す姿をテレビ等で映し出している。しかし、我々の父や夫や伯父・叔父たちは、今なお戦地で眠ったままである。戦争の愚かさや平和の尊さを次世代にしっかりと語り伝えていくことをお誓いする」と祭文を奏上された。

次に、多賀大社の巫女による「浦安の舞」が奉納され、続いて玉串奉奠があり、御霊をお慰めした。最後に山本官司は

「今年には自然災害が多発し、各地で被害が出た。日本は大きな災害があっても、大東亜戦争の未曾有の敗戦で大きな犠牲を払いながらもゼロから立ち上がり、近代文明国家として歩みを続けてきた。平成30年は明治維新から150年という節目の年に当たり、5月1日には皇太子殿下が

◆滋賀県護國神社 英霊顕彰館だより◆

靖國神社遊就館への写真の申し込みが中止になって、遺影をお祀りできるのはこの英霊顕彰館だけであることを、遺族会が核となってPRしていかねればなりません。

それとともに、80%を超える戦争を知らない人たちに「英霊の尊い犠牲があった現在の平和が存在する」ことを実感してほしいと思います。

最近、彦根市内の中学校の課外授業で、生徒たちが見学に来てくださいようになりました。(山本禰宜談)

このような学習の輪が県内各地に波及し、「平和祈念館」との相乗効果を期待したいと思います。(彦根市遺族会 原 幸男)

第126代の天皇陛下に即位される。明るい明治維新のような思いがする」と締めくくられた。

当大祭には、彦根市遺族会と滋賀県遺族会女性部委員の皆様が会場設営や湯茶接待等のあったことを知るとともに、一人でも多くの遺族会員の参拝を期待したい。(広報 西川 久子)

まじまじなみ

草津市平和祈念のつどい

草津市遺族会連合会 川井 欣司



新堂中学校の生徒による発表

平成30年10月27日、草津市平和祈念のつどい実行委員会と草津市主催による「草津市平和祈念のつどい」が草津アミカホールで開催されました。第一部は戦没者追悼式典、第二部は平和講演が行われ、大長弥宗治滋賀県遺族会長はじめ、武村展英衆議院議員他多数の来賓と、一般の方々の総勢200人が参列。うち草津市遺族会からは69人が参列しました。

第一部では、草津市遺族会連合会の久保博青年部長が追悼のことばを述べました。



祭壇に献花する参列者の皆さん

参列者全員が祭壇に献花の後、平成29年度次世代戦跡訪問研修に参加した草津市立新堂中学校1年の重田愛乃さんと若城さつきさんが知覧戦跡訪問研修の体験談を発表。若い特攻隊員の出撃前の明るい表情や、詩人・石垣りんさんの「戦争の記憶が遠ざかる時 戦争がまた私たちに近づくと、そうであれば良い」の詩に感動し、若い人たちが戦争の悲惨さを、心に留めていただいたことに感動しました。

第二部は、「地球のステーション」と題して、NPO法人「地球のステーション」代表理事の桑山紀彦さん(精神科医・心療内科医・医学博士)に、現在の世界の貧困の実情をお話いただきました。

また、自身の親族のおじさんが戦争中、空軍パイロットとして活躍、特攻に出撃する直前に終戦になったお話や、友達などを戦争で失った体験から二度と戦争に参加しない、飛行機に乗らないと、戦後は百姓として過ごされた話を聞き、参加者全員が感銘を受けました。

ロビーには、ガザ紛争を生き抜いた子どもたちの「戦争の絵」が展示され、参列者の目を引きました。世界が大戦前の状態に向かっているとされる現在、平和のために遺族会としても何をすればよいのか、考えさせられました。

滋賀県護國神社永代祭 参拝と奉仕作業

野洲市中主遺族会 木村 和代

平成30年11月14日、中主遺族会の15人が滋賀県護國神社永代祭参拝と奉仕作業をさせていただきました。最初に、拝殿にて山本大司禰宜様から祝詞に続き、120余人の祭神の出身地と祭神名を、次に戦没地と戦死の日を、最後に参拝者名を奏上していただきました。大変なご苦勞をさせていただきました。ありがとうございます。

この事業は、元々婦人部の方々が始められました。元気でおられた頃は、たくさんのお母さんたちが頑張ってくださいました。その後、私たちが引き継ぎました。当初は、前期・後期の2回に分けての参拝でしたが、私たちが高齢となり、年1回の参拝さえ参加する人が少なくなりました。今後いつまで続けられるかはわかりませんが、私たちが体力が残っている間は、参拝させていただきます。英霊顕彰館の父の写真に「また会いに来ますから」との思いで、護國神社を後にしました。

おかあさんを訪ねて

小路 郁子さん (102歳・米原市)



8号線と21号線との分岐点のどかな山あいの農村にお住まいの小路郁子さんは現在102歳。嫁いで2年あまりの29歳の若さで、ご主人を戦争で亡くされました。ご主人の中には赤ちゃんか…

「ご主人は、「男の子だったらし

ける、女の子だったら『政子』と名付けてほしい』と言って出征され、赤ちゃんの顔を見ないまま、ミヤンマーで戦死されました。

平成30年

11月の小春日

和の暖かい日、

友だちと2人で、

郁子さんの

娘さんの政子さんを訪ねました。

政子さんは、優しいご主人や

息子さんと共に郁子さんをお世

話なさっています。何って最初に、

安倍晋三総理大臣からの1000

歳のお祝いの賞状、お祝いの写

おかあさんこそ 私たち遺児の心の支え

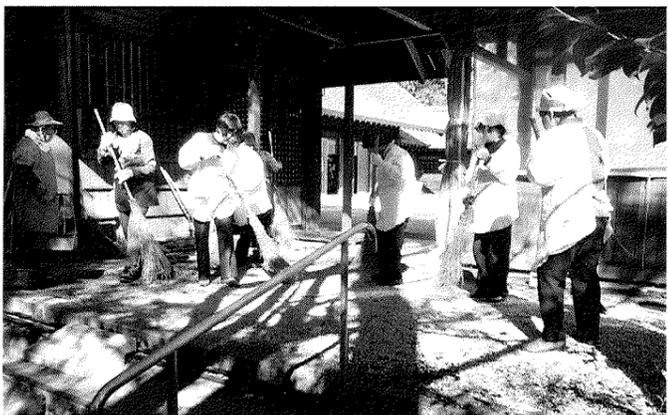
真等を見せていただきました。郁子さんは、60歳頃までは会社勤めでご苦勞も多かったでしょうが、その後、政子さんたちに見守られながら、草むしりをしたり、新聞を読んだり、また97歳頃までは日記

若い頃を思い出しながら、ショートステイやデイサービスに行き、歩行こそ困難になりましたが、穏やかな日々をお過ごしです。「65歳で病死した私の母にはそのような時間はなかったなあ」と

考えながら、デイサービスに出かけておられた郁子さんにはお目にかかれませんが、同じ境遇の遺児同士3人はいっまでも話は尽きませんでした。

郁子さん、どうぞ私たちの母の分まで長生きしてください。おかあさんたちこそ、私たち遺児の心の支えです。

(米原市 田中 美恵子)



護國神社の境内を参加者全員で清掃

靖國参拝の短歌・俳句募集

(趣旨)

今年も3月17日から18日、県内各地から450人余の会員が靖國神社に昇殿参拝します。参拝者に、その思いを書き綴っていただくため、靖國参拝の短歌・俳句を募集します。

(課題)

「靖國の旅」に限定

(応募用紙)

参拝往路新幹線の車中で配布する参加者名簿冊子に挟んで、参拝者全員に渡します。応募者は、応募用紙を切り取ったうえ、郵送またはFAXで応募してください。

(応募数)

短歌2作品、俳句2作品まで

(応募作品送付先)

滋賀県遺族会事務局気付け・広報委員会宛
郵送またはFAX送信

(締め切り日)

平成31年4月10日

(発表)

機関紙「遺族の友」第260号(6月発行)に掲載します。

(選者)

短歌選者：磯崎啓氏(米原市)
歌誌「青垣」選者
しがよみうり文芸短歌選者
俳句選者：寺村しげる氏(彦根市)
元彦根俳遊館館長
俳遊館入門講座講師

総務企画部会広報委員会

奮って応募
してください